

自由の学風と強大な学術レベルの融合

北京語言大学学生代表

見学日時：2019年11月27日（水）12:55-20:20

見学場所：京都大学

見学概要



私たちはまず吉田国際交流会館において韓先生から京都大学に関する紹介を受けた。韓先生は長年京都大学に勤めていて、同大学について多くを知っている他、話しぶりもとてもユニークで、私たちは京都大学についておおよその理解を得ることができた。その中で最も印象的でまた韓先生から最も言及があったのは、京都大学の「自由の学風」であった。

その後、ボランティア学生が私たちを連れキャンパスを案内してくれた。私たちが訪れたのは丁度京都が紅葉を迎える時期で、キャンパス内の銀杏やカエデの木もそれぞれ黄色や赤色に染まっていた。そしてキャンパスの見学により京都大学の自由の校風についてさらに具体的な印象が得られた。吉田寮や学内の掲示板等には京都大学の「自由」への一貫性が示されていた。またその後見学した校史館や京都大学の歴史上の様々な学内運動は改めて同大学の自由と学校自治への一貫性を証明するものであった。そして校門近くにある広場のような場所では、さらに伝統芸能のパフォーマンスの練習をしている人の姿を見かけた。

その後は多くの日本人学生と様々なテーマに関するグループ討論を行い、皆は積極的にそれぞれの意見を出し合い、結論をまとめ、発表を行った。

そして懇親会では、皆は学内のレストランで食事をしながら自由に交流を楽しんだ。

なぜですか？



問：京都大学には図書館は何ヵ所あるのか？

答：この小さな建物は京都大学の図書館である。初めてみた時は、これほど大きな京都大学の図書館が北京語言大学の図書館とほぼ同じ大きさであることに驚いたが、その後引率の学生に尋ねたところ、京都大学には図書館が11ヵ所あるとのことであった。

問：京都大学の学生はどういった場で自分の意見を発信することができるのか？

答：通常、中国の学生が自分の意見や提案を発信したい場合は直接教授の下を訪れるか或いはメールを送るしかない。だが、京都大学では学校の掲示板或いはキャンパス内の道沿いにおいて発信することができ、さらに学生らはどのような意見の発信も許されている。



問：京都大学内に警察が入ることができないのはなぜか？

答：学校における言論の自由と教育研究環境が政府の干渉を受けないようにするために、警察は京都大学内には入ることができない。かつて学生が校門近くで私服警官を捕まえたといった出来事もあった。この事を知った私は少し可笑しく感じたと同時にまた本当に驚かされた。その後引率の学生に、警察が入ることができないとすれば、学内でもし凶悪事件が発生した際にはどのように対処するのかと尋ねたところ、機動隊が対処するとのことであった。

感想

韓先生が紹介の中で述べていた通り、京都大学は教授と学生をととも尊重する姿勢を持った大学であった。京都大学は教授や学生が自身の興味に基づき研究を行うことをサポートしており、研究に対して制限を設けていない。この点についてはキャンパス見学やその後の学生との交流の際に強く感じる事ができた。正にこうした点が理由となり、私たちと交流をした学生はバリエーションに富み、皆が自身の考えを持ち、自分の好きな道を歩んでいたのかもしれない。京都大学が日本で最多のノーベル賞受賞者を輩出している理由について、私は同大学が学生や教授の興味を尊重し、皆に自由な研究の環境を提供しているからだと思った。